

いしかわの遺跡

No.
43
2013.3.22

奈良・平安時代の建物群



古府・国分遺跡の調査区と能登国分寺跡

七尾市の古府・国分遺跡で、一般国道159号（七尾バイパス）建設に伴う発掘調査を行い、奈良・平安時代の掘立柱建物群や井戸、道路などを確認しました。

掘立柱建物群は、能登国分寺創建以前の8世紀中頃から後半と創建時の9世紀中頃の二時期に分けることができ、国分寺の前身寺院や創建時の歴史的環境を考える上で注目されます。



空から見た古府・国分遺跡

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/



ながいけ いせき ののいちし
長池カチジリ遺跡・長池ニシタンボ遺跡 (野々市市)

長池カチジリ遺跡・長池ニシタンボ遺跡は野々市市長池地内に所在します。二級河川安原川広域河川改修工事に伴う発掘調査で、長池カチジリ遺跡で弥生時代後期～古墳時代前期の集落を、長池ニシタンボ遺跡では弥生時代後期、室町時代の集落を確認しました。

長池カチジリ遺跡では、集落を区画する弥生時代の溝が見つかり、溝の底から土器が多量に出土しました。溝の幅は約1.5mで、弧状につくられています。また、1間×2間、2間×2間の小規模な掘立柱建物ほったてばしらたものも見つかっています。

長池ニシタンボ遺跡では弥生時代後期の土坑・柱穴、室町時代の溝などが見つかりました。平成21年度に発掘調査した隣接地で、弥生時代後期の竪穴住居が見つかったことから、今回の調査区は住居域にあたると考えられます。



長池カチジリ遺跡 (北から)



長池カチジリ遺跡 弥生時代の溝



長池ニシタンボ遺跡 (北から)



長池カチジリ遺跡 弥生時代の掘立柱建物

のせみなみ いせき かもかまあとぐん つばたまち
能瀬南B遺跡・加茂窯跡群 (津幡町)

能瀬南B遺跡は河北潟東縁部の丘陵上に、加茂窯跡群はその丘陵先端部東側斜面に立地します。調査は河北縦断道路建設に伴うもので、南東には加茂遺跡が存在します。



遺跡遠景 (北東から)

能瀬南B遺跡 丘陵尾根上や南東側斜面で弥生時代後期後葉の土坑や溝などを確認しました。土坑の中には貯蔵穴とみられる大型土坑3基があり、最大のものは直径約2m、深さ約2mを測ります。

そのうち斜面に位置する2基は大きく斜めに削られており、大規模な地滑りにより削平されたとみられます。かつての尾根上部は今より幅が広く、他にも遺構が存在した可能性があります。

加茂窯跡群 7世紀前半の須恵器窯1基(加茂2号窯)の調査を行いました。地滑りにより窯体の大半が流失し、窯裾部では後世の開削が加えられていたため、窯奥部の床面約4mのみ残っていました。窯体の長さは10m前後とみられます。この窯で焼かれた須恵器は加茂遺跡で使われたとみられ、加茂遺跡の形成期を考えるうえで注目されます。



能瀬南B遺跡 丘陵上部の発掘作業風景



能瀬南B遺跡 貯蔵穴とみられる大型土坑



加茂窯跡群 発掘作業風景



加茂窯跡群 2号窯完掘状況

環日本海文化交流史調査研究集会

平成 24 年 10 月 26 日（金）に「弥生時代の墓」をテーマとして、第 13 回環日本海文化交流史調査研究集会を開催しました。この研究集会は、平成 12 年度より毎年開催している研究事業で、今回は平成 20 年度の「弥生時代の家と村」と関連させ、北部九州から東北地方にかけて見られる弥生時代の墓制を 9 名の講師の方々に発表して頂き、弥生時代の墓に埋葬された人々や社会集団などを探ることで、日本海沿岸における地域間の交流解明を目指しました。

北部九州の報告では、前期に出現する区画墓に加えて、中期からみられる標石をもつ甕棺墓や青銅製品の副葬など、顕在化する弥生時代の墓の様相に加えて、区画墓の変遷や有力者層の墓制、手厚い副葬品の変化などが示されました。山陰の発表では、出雲から因幡の後期の墳丘墓 140 基を調べ、中期の土坑墓や木棺墓が後期へと継続しないなか、新たに出現した台状墓や四隅突出型墳丘墓などの特徴が解説されました。近畿北部では、丘陵上に造営された方形周溝墓の変化や、後期の中で台状墓が発展する様子なども発表され、鉄製武器や工具の副葬品が北陸と似ていることも説明されました。



討論の様子



資料見学会

福井県の若狭では中期前葉に方形周溝墓が出現し、中期後葉になると越前に台状墓が出現し、四隅突出型墳丘墓へと引き継がれていきます。石川県の加賀では中期中葉に方形周溝墓が出現し、継続した造墓が小松市の八日市地方遺跡でも確認されます。また、能登では後期になると土坑墓の大型化がみられ、後期後葉に鉄製品とガラス玉の副葬から階層性が提示されました。富山県では後期から古墳時代前期にかけて、方形周溝墓に加えて円形周溝墓の造墓もみられ、新潟県の中越や下越では再葬墓が中期まで残り、方形周溝墓は小松式系土器と同時期に出現することが報告され、東北の方形周溝墓の初現が古墳前期の米沢盆地にあることも確認されました。

討論では、北陸で見られる弥生時代の墓と特徴、方形周溝墓の出現と系譜、墳墓からみた階層性の三点について話し合い、その記録は『石川県埋蔵文化財情報』第 29 号に掲載予定です。なお、翌 27 日の資料見学会では、石川県内の方形周溝墓等から出土した土器や副葬品を検討しました。金沢市七ツ塚墳墓群の鉄製品や玉類、かほく市中沼 C 遺跡出土の祭式土器と装身具などが注目を集め、副葬品にみる階層性や遠隔地交流などを話し合いました。



古代体験学習講座 ～古代の草木染め～

平成 24 年 12 月 9 日(日) に「古代の草木染め」を開催しました。用いた染料はクヌギと蘇芳の 2 種類です。まず、体験ひろばで採取したクヌギのドングリなどから抽出した染め液で、輪ゴムや割り箸で絞り染めの準備をした白い絹の布を煮こみました。液から取出したあと、染料の発色や定着を促す作用がある媒染液に浸けます。その成分により赤茶色や黒っぽく布が染め上がり、さらに絞り染めの模様が白く浮き上がりました。続く、蘇芳を使った絞り染めでは、赤地に白い模様が浮かび上がりました。蘇芳は熱帯原産のマメ科の樹木が原料で、その鮮やかな赤色は古代の貴族に愛されたようです。



染料で布を煮こむ



媒染液に浸ける



作品 (左:クヌギ、右:蘇芳)

冬の限定メニュー 木簡年賀状づくり 古代はたおり体験

平成 24 年 12 月 1 日(土) から 12 月 16 日(日) まで「木簡 年賀状づくり」を実施しました。木簡とは、墨で文字が書かれた木の板のことで、古代には役所の文書、荷札等に使われてました。体験では、はがきサイズの木の板に、古代の文房具(硯・墨・筆)を使って文字や絵を書き、「木簡年賀状」を作りました。体験者は、苦労しながらも、板に思い思いの文字や絵を書き年賀状を完成させていました。

平成 25 年 2 月 23 日(土) から 3 月 10 日(日) まで「古代はたおり体験」を実施しました。これは、古代の機織具を使って織物を作る体験で、高機を使用しました。初めは難しくて大変ですが、慣れるにつれ機織具を使いこなすことができ、体験者はさまざまな色の糸を使って、自分だけの多彩な織物を完成させていました。



木簡 年賀状づくり



筆をもって書き始めます



古代はたおり体験



年賀状のできあがり



平成24年度 講座 考古学最前線「縄文人の植物資源利用に関する技術・作業空間について」

本講座は、最新の考古学の研究成果をわかりやすく解説する公開講座で、平成24年11月10日(土)に石川県立美術館ホールで、首都大学東京の山田昌久教授に、「縄文人の植物資源利用に関する技術・作業空間について」と題してご講演いただきました。

山田教授は、現代において、金属や化石資源に頼っている施設、装置、燃料などのほとんどは、人類が縄文時代から植物を利用して作ってきたことを指摘し、それを考古学研究の場で証明・復元する作業方法などを提示されました。特に、木材や石斧などの特性を理解する手段として、実験考古学の有効性を提唱され、全国各地の遺跡での実践例を示し、県内では、能登町真脇遺跡で復元された縄文時代晩期の環状木柱列を紹介されました。

来場者からは、「地道な実験考古学の成果によって、縄文時代に対する見方や考え方が変わった。」といった感想が聞かれました。



講演する山田教授



ふるさと遺跡塾

平成24年度から新たに始めた出前講座です。公民館、郷土史研究団体、学校等の依頼を受けて、地域の遺跡について解説する講座で、遺跡の写真パネルや出土品を持参し、発掘成果や地域の歴史について詳しく説明します。

今年度は小松市と志賀町で実施し、地元の遺跡から出た土器や石器を間近に見ていただきました。参加者からは「ふるさとの遺跡がよくわかった」「土器を間近に見ることができてよかった」という声が聞かれました。



会場風景 (志賀町のホール)



遺跡の解説 (小松市の公民館)



遺物の展示



展示品の説明

移動講座「まいぶん出^デり張^バり」

この講座は、県内各地で実施した発掘調査の成果を地元に出向いてわかりやすく報告し、出土品・写真パネル等を展示して解説する公開講座です。今年度は2月に行いました。

○かがを掘る

平成25年2月10日(日)に津幡町教育委員会と共催で津幡町文化会館シグナスで開催し、60人を超える参加者がありました。

三浦純夫所長が「加茂遺跡と津幡の古代」と題して報告しました。加茂遺跡は、国指定重要文化財「加賀郡勝示札」が出土したことで有名で、平成3年度から津幡北バイパス・河北縦断道路建設に伴う発掘調査を行っており、今回の報告はその集大成ともいえるものです。古代の交通をキーワードに加賀郡勝示札が作られた背景を探ったもので、加茂遺跡を中心とした古代の津幡の重要性を理解していただけたと思います。

遺物展示では、加賀郡勝示札(複製品)や和同開珎銀銭、墨書土器、鬼瓦など多くの出土品が並べられ、参加者の目を引いていました。



かがを掘る 報告風景



加茂遺跡出土品の説明

○のとを掘る

平成25年2月24日(日)に志賀町教育委員会と共催で、志賀町文化ホールを会場として開催し、20名の参加者がありました。

福島正実調査部長が「発掘調査からみた志賀町の原始・古代」と題して、鹿首モリガフチ遺跡、北吉田ノメ古墳群、東小室ボガヤチ遺跡など志賀町における旧石器時代から中世までの発掘成果を紹介しました。

遺物展示では、赤住ナカノA遺跡のナイフ形石器(旧石器時代)や、福井ナカミチ遺跡の銅製帯飾り(平安時代)などを解説し、参加者には実際に出土品を見て、身近にある遺跡から貴重な遺物が出土していることを知っていただけました。



のとを掘る 報告風景



展示品の説明

体験案内

まいぶんセンター 古代体験案内

石川県埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めていただくために、出前考古学教室や団体の施設見学・体験、古代体験ひろばでの随時体験などを行っております。

古代の暮らしにふれるさまざまな体験をとおして歴史を学ぶことができます。

出前考古学教室



縄文人の暮らしにふれる
実物の土器や石器に触れて、縄文人の暮らしを体感します



貫頭衣を着て
縄文人に変身



火起こし体験
火起こしにチャレンジし
古代人のワザを学びます



クルミ割り体験
石器を使って縄文人の好物
クルミを割り、試食します

団体の見学・体験 (予約が必要です)



出土品整理室の見学
遺跡から出た土器を形や時期
ごとに分類しています



体験農園
アワ、ヒエ、キビなどの
収穫を体験できます



収蔵展示室
県内の遺跡から出た各時代の
土器が展示しており、触る
こともできます



親子で、まが玉と縄文
アクセサリー作り

個人随時体験



まが玉づくり



火起こし



古代衣装の試着